平成26年度 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

ブックワールド

平成26年12月7日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

子どもたちに読書体験活動を推進することをとおして、読書の楽しさや面白さを感じてもらい、進んで読書をしようとする態度を育くむ。また、子どもの体験活動や読書活動の振興を図るために、子どもゆめ基金の普及啓発を行う。

2. 事業の概要

- (1)期 日 平成26年12月7日(日)
- (2)募集 幼児から小学校中学年及びその家族(子どもだけの参加は不可)
- (3)参加者 図書館の秘密参加者 15家族 46名 ブックワールド参加者 119名
- (4)公演団体 おはなしグループ「そらきたホイ!!」 科学の本の読み聞かせの会「ほんとほんと」 岡山ストーリーテリング研究会 人形劇団三門だんご ノートルダム清心女子大学 児童文化部 中国学園大学 子ども学部子ども学科

(5)企画・運営のポイント

①活動団体との連携

県内の図書館や県,市教育委員会等へ読書団体の照会を図り,新規に3団体と連携して実施することができた。人形劇や読み聞かせを始めクラフト作りや体を動かす活動を取り入れ参加型の活動にすることで,子どもたちに本を読む面白さと体験をとおして感じてもらうことのできる内容を公演団体に依頼した。

②施設ボランティアによるボランティアスタッフ参加

事業の運営に積極的に携わらすことで参加者の立ち位置やニーズ,対応についてのスキルアップを図った。

3. 活動の内容等

(1)日程等

活動内容	9 		10	11	I I	12	 	3 	 1 	4	15	 1 	6
おはなしグループ「そらきたホイ」 (おはなし会・・・読み聞かせ・言葉遊び 詩遊び・ミニエ作等)			おはなし会	2		食	おは	なし会	AL.	おはなし会	a.		
岡山ストーリーテリング研究会 (ストーリーテリング)			おはなし会		昼		おは	なし会		おはなし会			
科学の本の読み聞かせの会 「ほんとほんと」・科学と本をつなぐ			受休 9:3 ~	公演 ①	ン	ノスI にて キン			·演 2	移動休憩	公演 ③	角星前女	τ
人形劇団「三門だんご」 (岡山のむかしばなしなど)			公演 ①		休	憩		·演 2					
ノートルダム清心女子大学 児童文化部 中国学園大学 子ども学部子ども学科				絵本の読 み聞かせ					の読 かせ		絵本の読 み聞かせ		

(2)活動の状況

- ① 「図書館の秘密」へ参加した全ての家族(15家族)もブックワールドへ参加し公演を楽しんだ。
- ② 「科学の本の読み聞かせの会 ほんとほんと」、「おはなしグループそらきたホイ!!」、「岡山ストーリーテリング研究会」、「人形劇団三門だんご」、「ノートルダム清心女子大学 児童文化部」、「中国学園大学子ども学部子ども学科」よる6団体の公演を行った。それぞれの団体が事業趣旨に沿った内容で発表の場とした。
- ③「読書スペース」

読書の楽しさを味わってもらえるように絵本と読書スペースを2部屋設け、ゆったりとした雰囲気・環境を提供した。親子による読み聞かせをする姿が多々見られた。



おはなしグループ「そらきたホイ!!





おはなしグループ「そらきたホイ!!」

科学の本の読み聞かせの



人形劇団「三門団子」



岡山ストーリーテリング研究会



ノートルダム清心女子大学児童文化部

4. 成果·課題

(1)成果

○ 多種多様な団体が日頃の活動内容を披露できるように事前に調整を図りながら公演(ストーリーテリング,工作,お話会)をすることで,各年齢層,親子対象に対応する公演内容にすることができた。

さらに、読書スペースを作ることで親子による読み聞かせなど読書が進む環境を提供できた。

- 各団体のプロフィールや公演場所や公演時間の入った掲示板を新たにつくり、公演内容を受付だけではなく人の目につきやすい所に計画的に掲示したことで受付場所から離れた場所で公演する団体や読書コーナーの場所など、初めての参加者には分かりにくい場所でも、スムーズに移動でき、公演に支障をきたすことがなかった。
- 各団体の公演内容は、子どもの読書意欲を向上させるだけではなく、保護者に対して読書活動や 言語活動の重要性を理解させるものであった。

(2)参加者アンケートから(抜粋)

- 楽しく参加させていただきました。ストーリーテリングは話の中に吸い込まれるようで親の方がわく わくしてしまいました。
- 今回初めて参加したが、人形劇は迫力がありました。
- 色々な公演を見ることができ楽しかったです。全部の公演団体を見られないのが残念です。
- 絵本の読み聞かせだけではなく、工作や科学実験もあり親子で楽しめました。

(3)今後の課題等

○ 県内幅広く、チラシの配付や町内放送、インターネットでの広報を行ったが運営側が期待していた 参加者人数に達すことができなかった。

各市町や図書館でも同じような事業を実施しているため青少年教育のショナルセンターとして, 読書活動の推進に向けた効果のある内容をさらに精査する必要がある。

担当:企画指導専門職 河本 潤